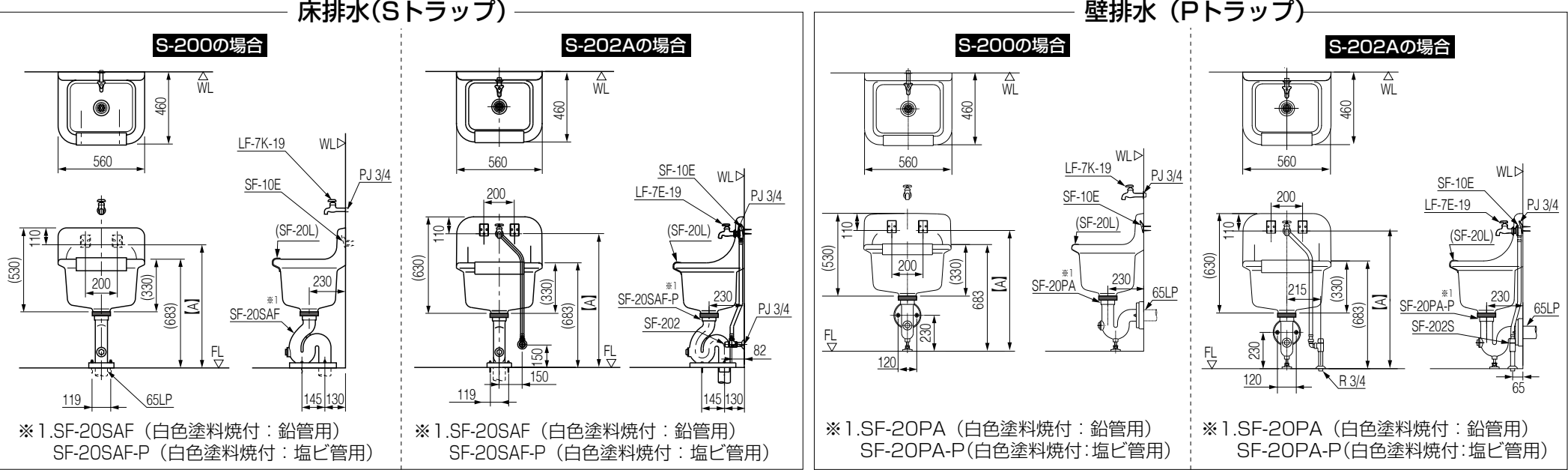


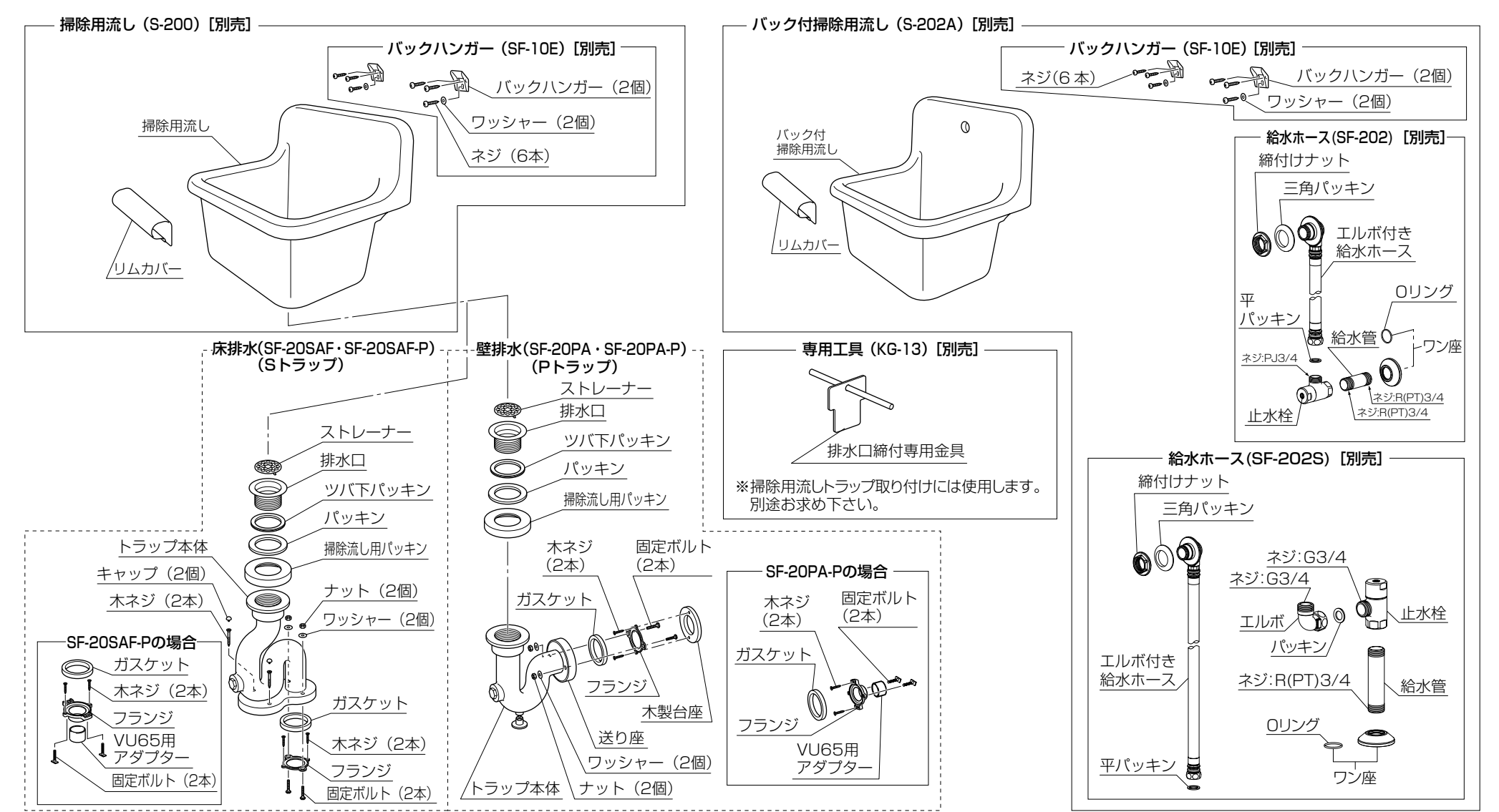
掃除用流しトラップ

床排水(Sトラップ)/SF-20SAF,SF-20SAF-P
壁排水(Pトラップ)/SF-20PA,SF-20PA-P

施工完了図 () 内は参考寸法。【A】のバックハンガー取付位置は排水トラップを仮取付け後、陶器を乗せて現物合せのこと。【施工手順4を参照ください】



商品図



安全上のご注意

- 施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
- ここに示した注意事項は、状況によって重大な事故に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ずお守りください。
- 施工完了後、正常に作動することを確認するとともに、お客さまに使用方法、お手入れの仕方を説明してください。

用語および記号の説明

注意

… 取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。

… 「注意しなさい！」
(上記の「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。)

… 「してはいけません！」
(してはいけない行為を表しています。
たとえば🚫は「分解禁止」を示しています。)

… 「指示通りにしなさい！」
(一般的な行動指示記号です。)

⚠️注意

修理技術者以外の人は、絶対に分解・修理・改造を行わないでください。
※ケガをしたり、漏水、故障、破損を引き起こすおそれがあります。

掃除用流しに、お湯をそそいだりしないでください。
※ケガをしたり、漏水、破損を引き起こすおそれがあります。

上水道以外は使用しないでください。
※内部腐食や異物のつまりにより、故障の原因となります。

施工後の漏水点検を必ず行ってください。
※漏水により家財等を濡らすおそれがあります。

このたびは当社商品をお買い求めいただき、誠にありがとうございました。

注意

- この施工説明書をよく読み、正しく本商品を施工してください。
- 施工後は必ず漏水確認を行ってください。

施工前のご注意

- はじめに、輸送中の破損がないことを確かめてください。
- 本品は非常に重いため、施工の際は落とさないよう十分注意をしてください。ケガをしたり、部品を破損するおそれがあります。
- 各接続部は、漏水が起こらないように確実に接続してください。
- 施工時に、トラップの塗装面を傷つけないようにしてください。
※トラップは鋳鉄製です。塗装がはがれた場合、鉄の部分が露出した状態で長い間使用していると、赤錆が発生するおそれがあります。

組合せ

部材 下地の材質	トラップ本体		掃除用流し ※3	バックハンガー
	床排水 (Sトラップ)	壁排水 (Pトラップ)		
コンクリート	SF-20SAF(AY) SF-20SAF-P(AY)	※1 SF-20PA SF-20PA-P	S-200 S-202A	SF-10E(AY)
それ以外の場合 (合板等)※2	SF-20SAF SF-20SAF-P			SF-10E

- ※1 コンクリートにPトラップを施工される場合、AYボルト(AY-1(1P))2本を手配してください。この場合、下穴(Φ 7.5mm、深さ45mm)を開けてください。
※2 取付強度を保つために、下地に15mm以上のJAS規格合板相当をご使用ください。
※3 給水ホース(SF-202、SF-202S)は、S-202Aとのみ組合せ可能です。

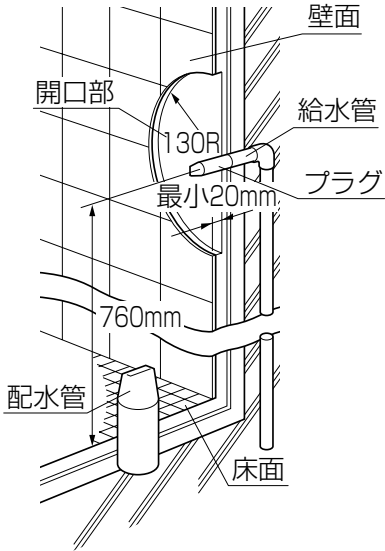
施工準備

バック付掃除用流し(S-202A)の施工準備

下図の様に開口部を設けてください。
※ S-200 を施工する場合、開口部を設ける必要はありません。

[給水ホース(SF-202、SF-202S)を使用する場合] [バック裏給水を行う場合]

	SF-202	SF-202S
a	150±20	—
b	—	215±20
c	—	65±20



施工手順 ーSトラップ使用の場合ー

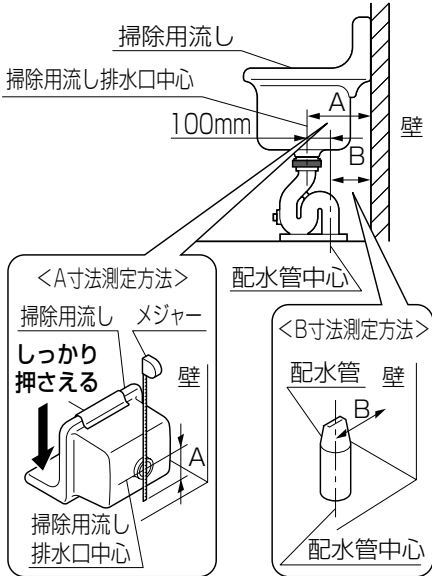
1 フランジの取り付け

※トラップを取り付ける排水管が、鉛管か塩ビ管かによって、使用するフランジが違い、また取り付ける方法も異なります。取り付ける排水管に合ったフランジの取り付け方法をお読み頂き、正しく取り付けてください。

1. 組み合わせて使用する掃除用流しの排水口穴中心から、壁までの距離Aを計測します。
※掃除用流しは陶器の寸法差異があるため、必ず実寸法を計測してください。
2. 排水管中心から壁までの距離Bを計測します。
3. A－B＝100mmになるように排水管を修正して、再度中心出しを行います。

下記表は計測時の寸法記入にご使用下さい

寸法	記入欄
A	
B	
A－B	



● 鉛管の場合

4. 鉛管を、床より上15～20mm分残して切断します。
5. フランジに固定ボルト（2本）を入れ、鉛管に差込みます
この時、フランジの裏表に注意し、図にしたがって正しく取り付けてください。

ご注意

正しく取り付けないと、十分なシール性を確保できず、漏水するおそれがあります。

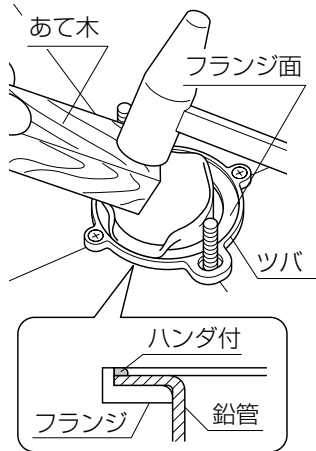
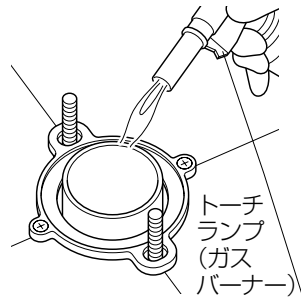
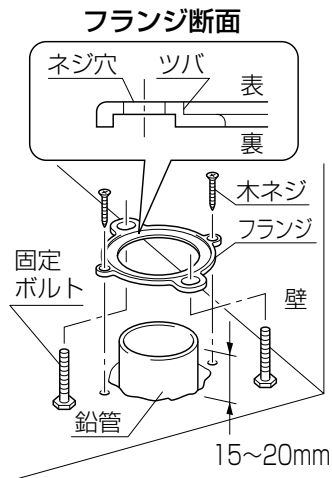
6. 木ネジ（2本）で、フランジを床に固定します。鉛管の切断部をツバ広げし、フランジにハンダ付けします。
※コンクリート床の場合、床にAYボルト用の取付穴(Φ7.5mm、深さ45mm)を開けてください。

＜ツバ広げのしかた＞

- ・トーチランプ（ガスバーナー）で鉛管を加熱します。

- ・フランジ面およびツバに沿って、鉛管を十分に広げます。

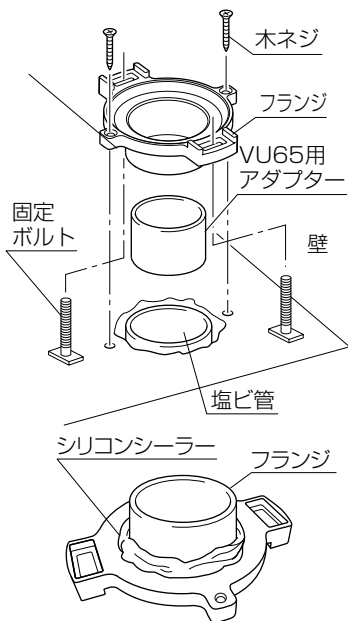
- ・仕上げ後、鉛管上部にハンダ付けします。



仕上げ後のフランジ断面

● 塩ビ管の場合

4. 塩ビ管の切断面が、床面と同じ高さとなるように塩ビ管を切断し、バリを取ります。
5. フランジを塩ビ管に仮取り付けして、がたつきのありなしを確認します。
※VU管の場合、あらかじめ塩ビ用接着剤でフランジにVU65用アダプターを接着します。
6. 固定ボルト（2本）をフランジの背面から通し、がたつきがない場合はフランジおよび塩ビ管の両方に塩ビ用接着剤を塗布します。がたつきがある場合はΦ10mm程度の太さでフランジの全周にシリコンシーラーを塗布します。接着剤またはシリコンシーラー塗布後、フランジを塩ビ管に確実に押し込みます。
7. 木ねじでフランジを壁に固定します。
※コンクリート床の場合、床にAYボルト用の取付穴（Φ7.5mm、深さ45mm）を開けてください。

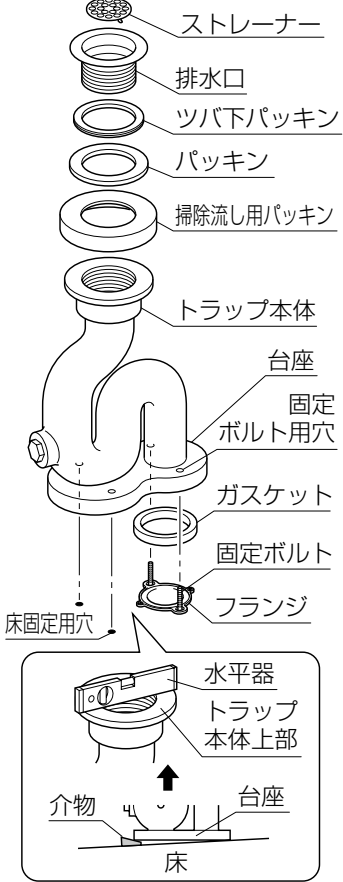


2 トラップ本体の仮取り付け

- ご注意**

本品は非常に重いため、施工の際は落とさないよう十分にご注意ください。ケガをしたり、部品を破損するおそれがあります。
1. トラップ本体上部に接続されている排水口（含むストレーナー）、ツバ下パッキン、パッキン、スポンジパッキン、掃除流し用パッキンを外します。
 2. トラップ本体台座のボルト用の穴に、フランジの固定ボルトを差し込みます。
 3. 水平器を使用して、トラップ本体上部水平になっていることを確認します。
※水平でない場合は、トラップ本体台座の下に介物をし、水平になるよう調整します。ただし、介物の高さは約3mm までにしてください。
- ご注意**

3mm以上の介物をすると、漏水するおそれがあります。
- ※コンクリート床の場合、床に床固定用の穴の位置をマーキングします。
4. トラップ本体を、いったんフランジから外します。



3 トラップ本体の本取り付けと水平調整

1. トラップ排水口部のゴミや水分は確実に取り除いてください。
- ご注意**

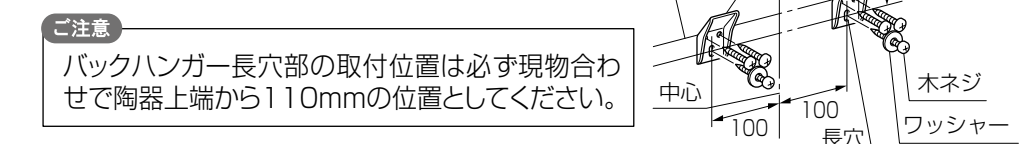
ゴミや水の付着があると、漏水するおそれがあります。
2. トラップ本体の排水口部にガスケットを取り付けます。
- ご注意**

ガスケットは、必ずトラップ本体側に取り付けてください。ガスケットが十分に付かず、漏水するおそれがあります。
3. トラップ本体を、フランジに取り付けます。
- ご注意**

トラップ本体に取り付けたガスケットにゴミが付着しないようにしてください。漏水するおそれがあります。
-
- トラップ本体下面より**
4. ナット（2個）、ワッシャー（2個）および木ネジ（2本）を使用して、トラップ本体を床に取り付けます。
※コンクリート床の場合、床にAYボルト用の下穴（φ10.5mm、深さ70mm）を開けてください。
 5. 水平器を使用して、再度トラップ本体が水平であることを、確認します。
※水平でない場合、介物およびトラップ本体の位置を調整してください。
 6. 木ネジまたはAYボルト（2個）の頭にキャップを取り付けます。

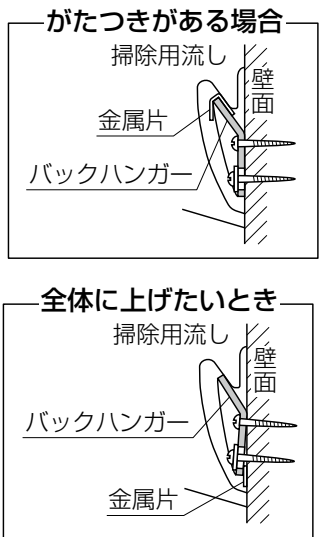
4 掃除用流しバックハンガーの取付位置決め

- 以下の要領で現物合わせ作業を必ず実施してください。未実施ですと施工できなかったり、ガタツキの原因となります。
1. トラップ本体上部に掃除流し用パッキンおよびスポンジパッキンをのせ、その上に掃除用流しをのせます。
 2. 掃除用流しの上端位置を壁にマーキングをします。
 3. 掃除用流しを外します。



5 バックハンガーの取り付け

1. 掃除用流し上端のマーキング位置から110mm下、および中心から左右それぞれ100mmの位置に、バックハンガーの長穴の中心を合わせていったん固定します。
(木ネジを左右各3本づつ使用します。)
※コンクリート壁の場合、壁にAYボルト用の取付穴(φ10.5mm、深さ70mm)を開けてください。
2. 掃除用流しを取り付け、掃除用流しの上端を軽く押さえて流しの傾き、がたつきを確認します。
※がたつきがある場合、下がっている側、またはがたつく側のバックハンガーの上面に、金属片の薄片（現場手配）を折り曲げて当ててください。また掃除用流し全体を上げたいときは、バックハンガーの下部に金属片をはさんで調節してください。
※S-202Aの場合、この時壁に水栓取付け位置をマーキングしておいてください。
3. 本作業が終わったら掃除用流しをいったん外します。



6 給水部の施工（S-202Aの場合）

1. 止水栓の取り付け
【給水ホース（SF-202）を使用する場合】
ワン座を通した給水管・止水栓を給水部に接続します。この時、ホース接続部を上に向けます。
- ご注意**

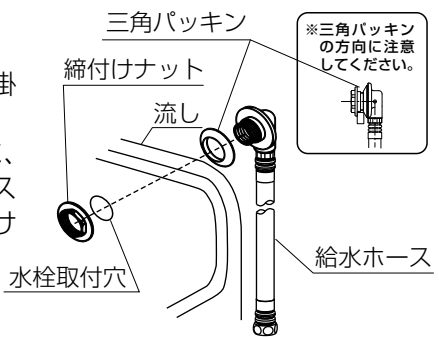
必ずシールテープを巻いてください。
-

【給水ホース（SF-202S）を使用する場合】

- ワン座を通した給水管・止水栓・エルボを給水部に接続します。この時、ホース接続部を上に向けます。
※止水栓とエルボを接続する際、パッキンが入っていることを必ず確認してください。入っていないと漏水の原因になります。
- ご注意**

必ずシールテープを巻いてください。
-

2. 給水ホースの取付けと止水栓への接続
※給水ホースは、流し（陶器）を壁に掛ける前に取り付けてください。
①流し（陶器）本体の水栓取付穴に、三角パッキンを付けた給水ホースを通し、締付けナットで締め付けて仮固定します。



- ②流しをバックハンガーにかけます。



- ③給水ホースに平パッキンを入れて、止水栓に接続します。
その後、締付けナットを増締めしてください。

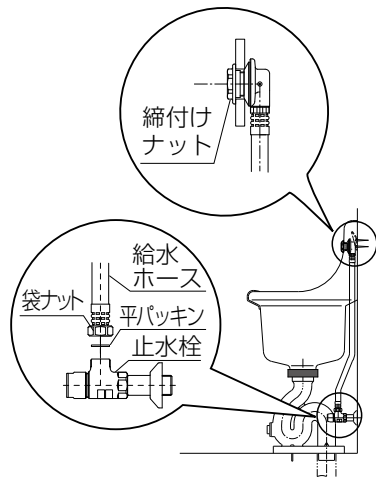
ご注意

締め過ぎに注意してください。陶器が割れるおそれがあります。

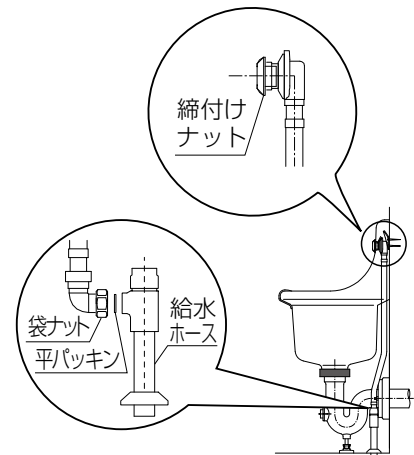
ご注意

袋ナットが斜めに入らないよう注意してください。

「SF-202の場合」



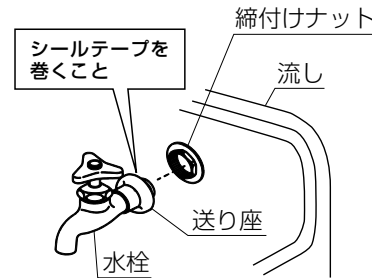
「SF-202Sの場合」



3. 水栓の取り付け
①水栓に送り座を付けた状態でシールテープを巻いて、水栓を給水ホースにねじ込み取り付けます。
②送り座を締付けナットのつば面へ十分締め付けてください。
- 掃除用流しと排水トラップの施工は、それぞれの施工説明書を参照してください。

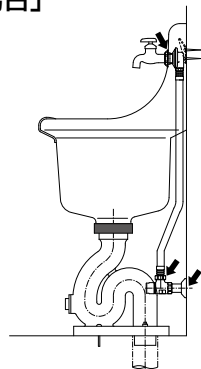
ご注意

必ずシールテープを巻いてください。

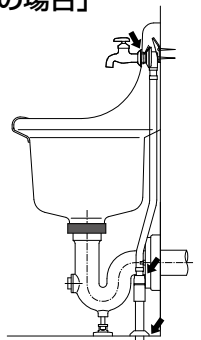


4. 取付後の確認
取り付け完了後、給水して接続部より漏水がないか確認してください。

「SF-202の場合」

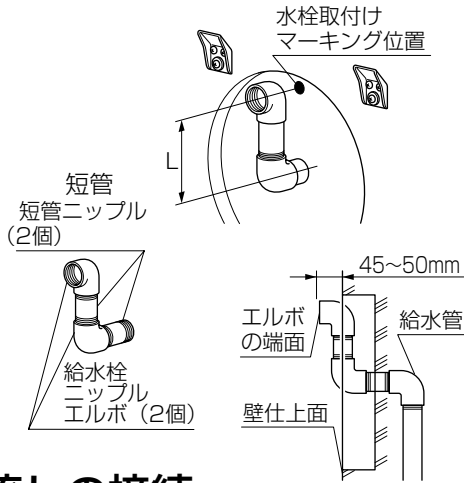


「SF-202Sの場合」



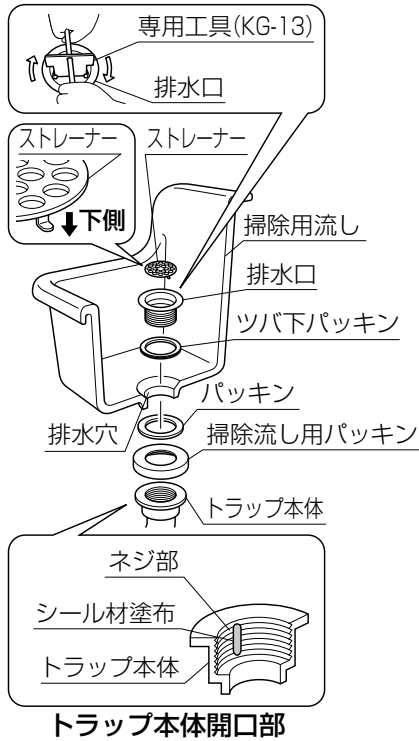
[バック裏給水を行う場合]

- ※S-200の場合、この作業は不要です。
- 給水管の取り出し位置から掃除用流しの水栓取付け位置までの寸法Lを計測します。
 - 計測に基づいて、短管を手配します。
 - 給水管にL寸法の短管をねじ込みます。
※この時、エルボの端面は壁仕上面から45mm～50mmにしてください。



7 トラップ本体と掃除用流しの接続

- 排水口にツバ下パッキンを通し、次に排水口を掃除用流しの排水穴に差し込みます。
- 掃除用流しの外側から、パッキン、掃除流し用パッキンの順に排水口に差し込みます。
- トラップ本体開口部内側のネジ部にシール剤を塗布します。
- 掃除用流しを取り付けます。
- 排水口を軽く手で締め付け、仮止めします。
- 排水口内のストレーナーを外し、排水口内部の凸部に専用工具 (KG-13) を当て、排水口を掃除用流しに確実に締め付けます。



ご注意

- 排水口を締め付ける際は、必ず専用工具 (KG-13) を使用してください。専用工具を使用して、確実に締め付けしないと、漏水するおそれがあります。
- トラップ本体の内部は常に水がある為、赤錆が発生しますが、破損及び漏水には到りません。

- ストレーナーを取り付けます。
※ストレーナーの上下の向きに注意して、取り付けます。
- トラップ本体台座部と床との隙間を、コーキング材で埋めて仕上げます。

8 漏水確認

施工後に、右図の矢印がさす箇所の漏水確認を必ず行ってください。

ご注意

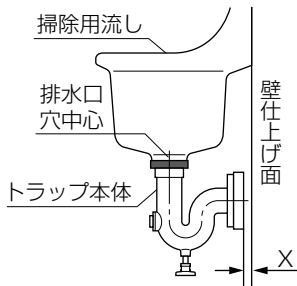
- 調整時に、トラップの塗装面を傷つけないようにしてください。
※トラップは鉄製です。塗装がはがれた場合、鉄の部分が露出した状態で長い間使用していると、赤錆が発生するおそれがあります。



施工手順 ーPトラップ使用の場合ー

1 フランジの取り付け

- ※トラップを取り付ける排水管が、鉛管か塩ビ管かによって、使用するフランジが違い、また取り付ける方法も異なります。取り付けの排水管に合ったフランジの取り付け方法をお読み頂き、正しく取り付けてください。
- ※Xが10mm～20mmにあることを確認してください。
- ※特別な耐火処置が必要な場合、木製台座のかわりに金属片 (現場手配) を挟み込んでください。

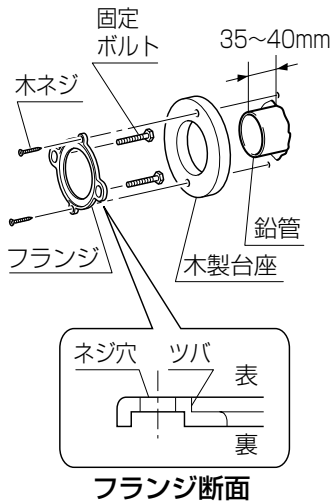


● 鉛管の場合

- 鉛管を、壁より上35～40mm分残して切断します。
- 鉛管に木製台座を差し込みます。
- フランジに固定ボルト (2本) を差し込んだ状態で、フランジを鉛管に差し込みます。
この時、フランジの裏表に注意し、図にしたがって正しく取り付けてください。

ご注意

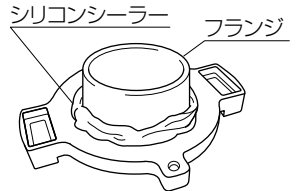
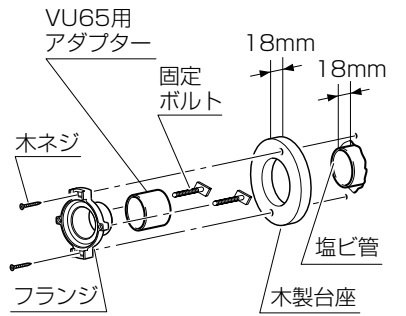
- 正しく取り付けないと、十分なシール性を確保できず漏水するおそれがあります。



- 木ネジ (2本) で、フランジを壁に固定します。
※コンクリート壁の場合、壁にAYボルト用の取付穴 (φ7.5mm、深さ45mm) を壁にあけてください。
- 排水管の切断部をツバ広げし、フランジにハンダ付けします。
(ツバ広げのしかたは施工手順ーSトラップ使用の場合ーを参照)

● 塩ビ管の場合

- 塩ビ管の先端が、木製台座と同一面でそろうように塩ビ管を切断します。
※塩ビ管は木製台座の厚み分 (18mm) を必ず壁から出して切断してください。
- ご注意**
塩ビ管の壁からの出寸法が18mmより小さいと、漏水するおそれがあります。
- フランジを塩ビ管に仮取付してがたつきのありなしを確認します。
※VU管の場合、あらかじめ塩ビ用接着剤でフランジにVU65用アダプターを接着します。
 - 固定ボルト (2本) をフランジの背面から通し、がたつきがない場合はフランジおよび塩ビ管の両方に塩ビ用接着剤を塗布します。がたつきがある場合はφ10mm程度の太さでフランジの全周にシリコンシーラーを塗布します。接着剤またはシリコンシーラー塗布後、フランジを塩ビ管に確実に押し込みます。
 - 木ねじでフランジを壁に固定します。
※コンクリート壁の場合、壁にAYボルト用の取付穴 (φ7.5mm、深さ45mm) を開けてください。

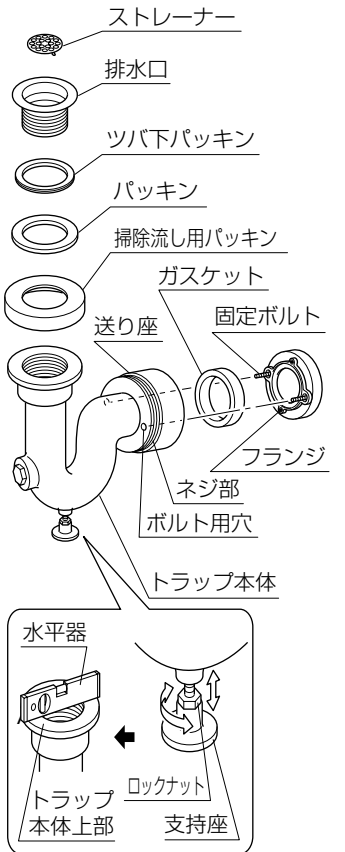


2 トラップ本体と仮取り付けと水平調整

ご注意

- 本品は非常に重いため、施工の際は落とさないよう十分にご注意ください。ケガをしたり、部品を破損するおそれがあります。

- トラップ本体上部に接続されている、排水口 (含むストレーナー)、ツバ下パッキン、パッキン、掃除流し用パッキンを外します。
- トラップ本体側の送り座を、トラップ本体のネジ部が隠れるまで回しておきます。
- ボルト用の穴にフランジの固定ボルトを差し込みます。
- トラップ本体下部のロックナットを緩め、支持座を回してトラップ本体の高さを調節します。
- 水平器を使用して、トラップ本体上部が水平になるように、支持座とトラップ本体を調節します。
- トラップ本体を、いったんフランジから外します。



3 トラップ本体の本取り付け

- トラップ排水口部のゴミや水分は確実に取り除いてください。

ご注意

- ゴミや水分の付着があると、漏水するおそれがあります。

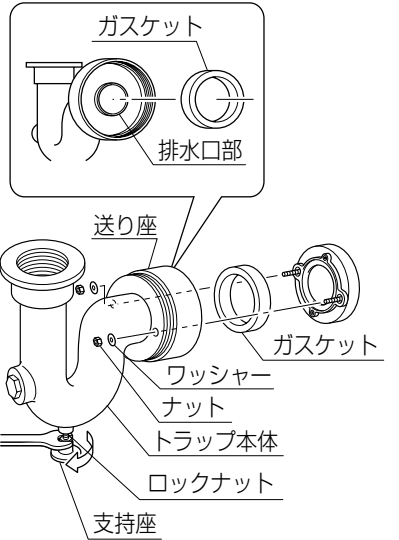
- トラップ本体後部の排水口部にガスケットを取り付けます。

ご注意

- ガスケットは、必ずトラップ本体側に取り付けてください。ガスケットが十分に付かず、漏水するおそれがあります。

- トラップ本体を、再度フランジに接続します。
- ナット (2個) とワッシャー (2個) を使用して、トラップ本体を壁に取り付けます。
- 送り座を壁にあたるまで回します。ロックナットを支持座側に締め付けます。
- 再度、水平調整を行います。

トラップ本体後面より



以降、施工手順ーSトラップ使用の場合ーの下記手順に従って施工をしてください。

- 掃除用流しバックハンガーの取付位置決め
- バックハンガーの取り付け
- 給水部の施工 (S-202Aの場合)
- トラップ本体と掃除用流しの接続
- 漏水確認